

第2回腫瘍センター講演会の報告書

抗がん薬の曝露対策をテーマに講演会を開催しました。がん治療に携わる医療者にとっては重要なテーマで、50名が参加し、活発な質疑応答を行いました。初めに福岡大学薬剤部の真島宏太先生が、福岡大学病院における曝露対策の経緯と現状について講演しました。続いて九州がんセンター血液内科の奈良崎泰典先生が、揮発性抗がん薬であるベンダムスチンを使用した悪性リンパ腫治療の実際について講演しました。

特別講演の演者は四国がんセンターの青儀健二郎先生で、「職業性曝露対策をどうすすめるか？」というタイトルで、四国がんセンターの現状と対策、および青儀先生が主任研究者を務めて実施された国立病院機構ネットワーク共同研究の結果を講演されました。

薬剤部での抗がん薬調製、外来化学療法室および病棟での抗がん薬投与時に医療者が抗がん薬に曝露するリスクをさらに軽減するために取り組むべき課題とその解決方法を学ぶことができ、多変有意義な講演会でした。

